

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	環境特論Ⅱ	担当教員	青木哲		
学年学科	5年 建築学科	後期	選択	1単位(学修)	
学習・教育目標	(D-3 環境・創生系) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
授業の目標と期待される効果： これまでの環境工学・設備工学の講義において学修した換気・熱・湿気・光・色彩などの分野の基本理論を応用し、実際の建築物での問題展や解決手法を学ぶことを目的とする。具体的には、住宅の省エネ手法、結露対策、シックハウス問題、色彩学の実践などである。 ①気密工法、防湿工法の理解 ②省エネルギー手法についての理解 ③室内空気質汚染問題についての理解 ④色彩計画についての理解		成績評価の方法： 試験（中間のまとめ）の得点を 60%、課題を 40% とし、その総得点率によって最終評価とする。 達成度評価の基準： 各種専門書及び教科書の内容と同等レベルの問題を試験などで出題し、総合して 6 割以上の正答レベルに達していること。カッコ内は重み付けである。 ①高気密高断熱住宅の工法の相違や防湿方法などに関する語句説明などの問題を 6 割以上回答できる。(約 30%) ②さまざまな省エネルギー手法に関するメリットなどについての問題を 6 割以上回答できる。(約 30%) ③シックハウスやアレルギー問題に関する語句説明や簡易的な建築申請書類の作成が 6 割以上できる。(約 25%) ④色彩の基礎知識を活用して課題を実践できる。(約 15%)			
授業の進め方とアドバイス： 建築物に関わる省エネルギー手法や健康問題を学ぶ。これらに関する内容は時代の流れとともに大きく変化するため、日頃から新聞やニュースなどで最近の動向に注目しておくことよ。					
教科書および参考書： 適宜プリントを配布する。最新 建築環境工学 改訂第 3 版（田中俊六他、井上書院）を参考書として用いる。					
授業の概要と予定：後期			教室外学修		
第 1 回：建築物の気密工法			住宅メーカーのHPから気密性能を調べる		
第 2 回：建築物と省エネルギー手法 1			住宅メーカーのHPやパンフレットから、どのような省エネルギー手法が使われているか、ニュースでどのようなキーワードが取り上げられているかを調べる。		
第 3 回：建築物と省エネルギー手法 2			ヒートポンプに用いられている家電製品にどんなものがあるかを調べる。		
第 4 回：建築設備と省エネルギー			住宅メーカーによる住宅性能評価への取り組みについて調べる。		
第 5 回：住宅性能評価とは			住宅メーカーが健康な室内空間を確立するため、どのような手法を用いているかをインターネット等で調べまとめる。		
第 6 回：建築物と人体の健康問題（シックハウス・アレルギー）			—		
第 7 回：建築物と人体の健康問題（ダニ・カビ）			—		
第 8 回：中間のまとめ			—		
第 9 回：シックハウス防止のための申請書作成			住宅メーカーがシックハウス対策にどのように取り組んでいるかをインターネットで調べる。		
第 10 回：シックハウス防止のための申請書作成			—		
第 11 回：建築の色彩と省エネルギー			街を歩き、どのような建物にどのような色が使われているかを調べておく。		
第 12 回：建築の色彩計画			—		
第 13 回：色彩設計の実践 1（課題 1）			授業時間内で演習の時間は設けているが十分ではないため、教室外においても課題の作成を進めておくこと。		
第 14 回：色彩設計の実践 2（課題 2）			—		
第 15 回：色彩設計の実践 3（課題 3）			—		
—			—		
第 16 回：フォローアップ（課題の返却・解説等）			—		